



6月は2校で出前授業を実施

6月は、湯本小学校と笹間第二小学校の2校で出前授業「縄文時代の暮らし」を行いました。

最初に、博物館のスタッフを紹介し、次に授業の流れと実物資料を観察する際に注意について説明をしました。そして、その後学芸員によるスライドを使った解説を行いました。どちらの授業でも、児童が学芸員の解説を真剣に聞いている姿と、実物資料を熱心に観察している姿が印象的でした。

出前授業の主な内容は次の通りでした。

- 縄文人はどんなひと？
- 「縄文」ってなんだろう？
- 縄文時代はどんな環境？
- 縄文人は1年をどうやって過ごすの？
- 縄文人が使っていた道具
- 縄文人が住んでいた家は？
- 土偶ってなんだろう？
- 縄文時代の狩りの様子
- 実物資料（土器、石器）の観察



湯本小学校6年生が実物資料を手にとって熱心に観察をしている様子



笹間第二小学校でのスライドを使って解説している様子

昭和20年、花巻でも空襲があったことを知っていますか

昭和20年8月10日に花巻駅周辺や花巻中心部、岩手軽便鉄道（現在のJR釜石線）似内駅の駅舎周辺や停車中の列車が、米軍機による機銃掃射や爆撃を受け、たくさんの被害が出ました。

花巻駅周辺では爆弾やロケット弾の投下、機銃掃射により30名以上の方が亡くなっています。花巻中心部の上町や豊沢町などは、爆撃によって火災が発生し、2日間にわたり燃え続けました。

また、似内駅では客車が爆弾の直撃を受け、乗客5名が亡くなりました。亡くなった方々の中には、国民学校の若い女性教諭もいました。

花巻市博物館では、「花巻空襲」の出前授業を行っています。小学校の6年生2学期後半のカリキュラム「戦争と人々の暮らし」とも関係する内容ですので利用ください。中学校での利用も可能です。

授業で使える 博物館常設展示の紹介③

弥生土器・甕^{かめ}（高松Ⅱ遺跡 花巻市高松）

今から2千数百年前、北九州で始まった稲作は本州全域に伝わりました。しかし、気候的に米作りに不向きな東北地方北部では、狩猟・採集中心の暮らしが続いていたと考えられます。土器の模様や土偶の製作など、この地方の弥生文化には縄文的な要素を多く残しています。

（花巻市博物館展示解説より）



アメリカ式石鏃^{せきぞく}（久田野Ⅱ遺跡）



アメリカインディアンが使う石鏃(矢じり)にこの形のものが多くことから、このように呼ばれています。弥生時代中期～後期に、北陸地方から東北地方にかけて分布する石鏃です。（花巻市博物館展示解説より）

花巻の古墳

熊堂古墳群（くまどうこふんぐん）



熊堂古墳群は、豊沢川北岸に広がる群集墳（ぐんしゅうふん）です。

熊堂古墳群のまわりには、ムラのあとが確認されています。また、古墳群のとなりには、住居あとも確認されています。古墳には、これらのムラの指導的人物やその家族が葬られたと考えられています。

東北部の群集墳には、遺体を埋葬する部分の造り方に2つのタイプがあります。

①長方形の穴をほるタイプ

②石を使って造るタイプ・・・熊堂古墳群は、②のタイプが多い古墳群です。

（花巻市博物館展示解説を抜粋）

熊堂古墳群から出土したものの一例



玉類（勾玉やガラス玉など）
わらびてとう 蕨手刀